お米と平和のひ・み・つ

広島大学附属三原小学校　三年　山本二葉

「ぼくが初めてお米を食べたのはいつ？」

お母さんに聞くと、五カ月の小さいぼくの写真を見せてくれました。ぼくは小さいスプーンを口にくわえて、とてもうれしそうな顔をしていました。でも写真に写っている食べ物は汁みたいで、おいしくなさそうでした。これはご飯をすりつぶしていること、食べることになれるため毎日スプーン一ぱいを食べていたことを教えてくれました。はじめてご飯を食べた日から毎日食べているものはお米です。五カ月の赤ちゃんのころから毎日食べていてもあきることはなく、今日もおいしくお米を食べています。

ぼくよりもっともっと前からお米を食べている九十才のひいおばあちゃんに、九十年も毎日お米を食べていてあきないのかと聞いてみました。ひいおばあちゃんは、毎日、朝昼夜いつも白いご飯を食べているそうです。ぼ

くは白いご飯も好きだけど、チャーハンやオムライスも大好きです。だけどぼくのおばあちゃんは、白いご飯が一番あまくておいしいと言います。ぼくのおばあちゃんが子どものころはせんそう中で、お米はとても大切で、白いご飯はべいたいさんしか食べられなかったそうです。だからご飯にさつまいもや大豆、むぎをまぜて食べていたと聞いて、ぼくがさつまいもご飯はあまくておいしそうだね、と言うと、さつまいもよりご飯の方があまくておいしかった、白いご飯は一口ずつしっかりかんで食べるとあまくなると教えてくれました。

ぼくは家に帰って白いご飯をよくかんで食べると、本当にあまく感じました。いつものご飯が、ま法にかかったみたいでした。

ぼくはおばあちゃんがくれるおいしいお米をいつでも食べることができます。毎日あたたかくておいしい白いご飯を食べられることはとても幸せで、感しゃしてーつぶものこさず大切に食べなければいけないと思いました。